

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	環境緑地論					授業形態	講義		
科目コード	710017	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	中野 光議							ICT活 用	○
授業概要	<p>本授業の目的は学生達が、良好な緑地環境を保全・再生し、生物と共生することができる環境づくりを理解することです。緑地環境を保全・再生するために必要な技術と政策について、緑地生態学の観点から解説します。この授業では緑地として、森林、草原、都市公園といった陸域の緑地に加えて、河川、湖沼、水田、水路、ため池といった水域も扱います。これらの緑地の保全について、計画の作成、設計、管理の段階ごとに解説します。また、緑地や生物多様性保全と関係が深い法律について紹介します。</p>								
関連する科目	<p>履修後は、水辺環境論、環境調査及び再生論、ビオトープ論、環境緑地論実習、水辺環境論実習を履修することが望ましい。特に、本科目とビオトープ論の両方を履修することで、ビオトープ管理士資格試験対策を始めることができる。</p>								
授業の進め方と方法	<p>授業の前半は講義を聞きながらワークシート（穴埋め形式）に取り組みます【知識・理解の獲得】。また、講義の中で学生に質問したり、学生が考える時間を設けたりすることで、学習効果を高めます。後半は、小テストや課題に取り組み、前半の学びを発展させます【汎用的技能の育成】。</p> <p>第13回はグループで自然環境保全計画を作成し、第14回と第15回にプレゼンテーションをします。これらのグループワークを通して、学生が課題を自ら発見し、解決策を考案する思考力を養います。また、特定のテーマについて議論を行うことで、批判的思考を養います。</p>								
授業計画【第1回】	<p>第1回 概論 授業全体の内容や進め方、緑地の定義等について理解します。また、環境緑地論の基礎となる生態学について概説します。</p>								
授業計画【第2回】	<p>第2回 自然保護区 緑地の形状と設定、および自然保護区について学びます。</p>								
授業計画【第3回】	<p>第3回 緑地計画 緑地を造成するための計画の作成に必要な事項について学びます。具体的には、農村と都市の違い、緑地に関する法律について学びます。</p>								
授業計画【第4回】	<p>第4回 樹林と草地の設計 樹林と草地の基礎知識と設計方法について学びます。</p>								
授業計画【第5回】	<p>第5回 水辺環境の設計 水辺環境の概要と設計の方針について学びます。</p>								
授業計画【第6回】	<p>第6回 鳥類の生息環境の設計 鳥類の生態の概要、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								
授業計画【第7回】	<p>第7回 昆虫類の生息環境の設計 トンボ類とホタル類の生態、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								
授業計画【第8回】	<p>第8回 両生・爬虫類の生息環境の設計 両生類と爬虫類の生態の概要、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								
授業計画【第9回】	<p>第9回 魚類の生息環境の設計 魚類の生態の概要、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								
授業計画【第10回】	<p>第10回 陸生・水生貝類の生息環境の設計 陸生・水生貝類の生態の概要、および生息環境の設計の方針や方法について学びます。</p>								
授業計画【第11回】	<p>第11回 生態学的植生管理 樹林と草地、および水辺の植生管理の方法について学びます。</p>								

授業計画【第12回】	第12回 緑地が直面する現在の課題 生物多様性の危機等の地球環境問題の解決に向けて、緑地を有効に活用する方法を学びます。
授業計画【第13回】	第13回 自然環境保全計画の作成 自然環境保全計画の作成を、グループ学習の形態で学びます。
授業計画【第14回】	第14回 自然環境保全計画の発表(1) 自然環境保全計画を発表します。
授業計画【第15回】	第15回 自然環境保全計画の発表(2) 自然環境保全計画を発表します。
授業の到達目標	1. 緑地の造成・管理に必要な幅広い知識を獲得する。【知識・理解の獲得】 2. 動植物を保全するために必要な知識を獲得する。【知識・理解の獲得】 3. 自然環境を保全するための方策を自分で考え出す思考力を養う。【汎用的技能の育成】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外学習【予習】	毎回、授業中に指示します。次回の授業のテーマについて本やインターネットで調べてもらいます(30分~1時間ほど)。
授業時間外学習【復習】	毎回の授業で指定します。また、返却された提出物を各自で見直してください(30分~1時間ほど)。
課題に対するフィードバック	ワークシート、小テスト、課題は評価後に返却し、解説します。
評価方法・基準	毎回の提出物70%、発表10%、学期末レポート20%で評価します。
テキスト	なし
参考書	『緑地生態学』井出久登ほか 著(朝倉書店) 『改訂9版 環境社会検定試験®eco検定公式テキスト』東京商工会議所 編著(日本能率協会マネジメントセンター) 『水辺環境の保全-生物群集の視点から-』江崎保男ほか 著(朝倉書店)
備考	なし